

環境省 環境情報と企業価値に関する検討会

イオンの 環境・社会貢献政策 概要

2017年11月27日

イオン株式会社
グループ環境・社会貢献部
金丸 治子

イオングループの概要



13カ国に広がるイオングループ

連結営業収益 約 **8兆2千億円**

グループ従業員数 約 **52万人**

イオンフィナンシャルサービス(株)
連結カード会員数 (2021年3月30日現在) **3,894万人**
(うち国内有効会員数 2,692万人)

店舗・事業所 **21,113** 店舗/カ所



イオンの基本理念

イオンとは、ラテン語で「永遠」
お客さまを原点に平和を追求し、
人間を尊重し、地域社会に貢献する。

- 小売業の繁栄は、「平和」の象徴
- 小売業は人間同士のつながりを
基盤とする「人間」産業
- 地域に根ざし、地域とともに
発展する「地域」産業

イオンの基本理念



お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。



イオン(AEON)とは、ラテン語で「永遠」をあらわします。

私たちの理念の中心は「お客さま」：イオンは、お客さまへの貢献を永遠の使命とし、最もお客さま志向に徹する企業集団です。

「平和」：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

「人間」：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

「地域」：イオンは、地域のくらしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

イオンは基本理念のもと、絶えず革新し続ける企業集団として、
「お客さま第一」を実践してまいります。

イオン サステナビリティ基本方針

私たちイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という「グループの成長」の両立を目指します。取り組みにあたっては、「環境」「社会」の両側面で、グローバルに考え、それぞれの地域に根ざした活動を、多くのステークホルダーの基本理念のもと、「持続可能な社会の実現」と皆さまとともに積極的に推進してまいります。

環境面の重点課題

- 低炭素社会の実現
- 生物多様性の保全
- 資源循環の促進

社会面の重点課題

- 多様な消費者課題への対応
- 公正な事業活動の実践
- 人権と多様性を重視した職場づくり
- コミュニティとの協働

取り組み
の視点

店舗で

商品で

お客さまとともに

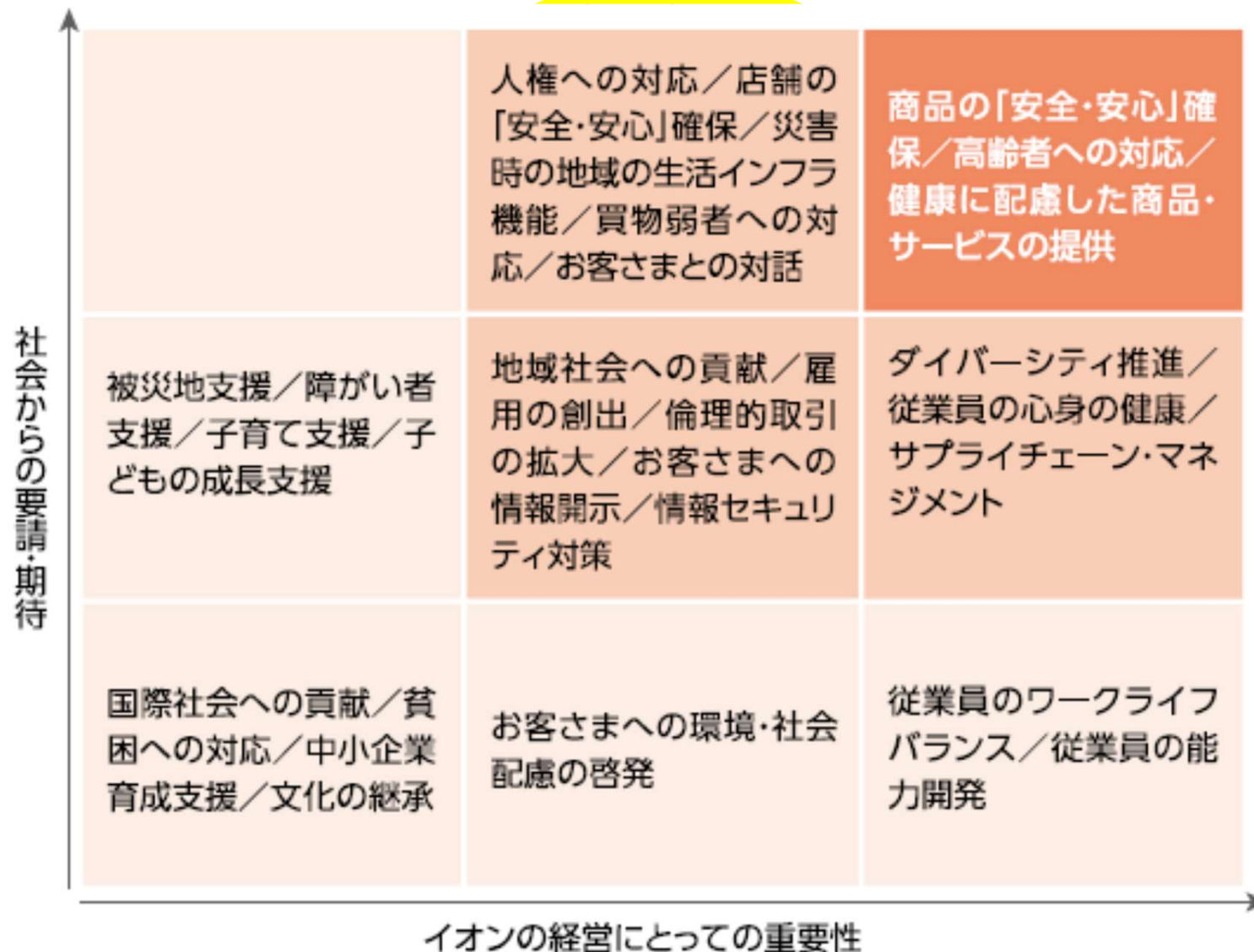
- ・ 低炭素社会の実現
- ・ 生物多様性の保全
- ・ 資源循環の促進



社会面の重点課題



- ・ 多様な消費者課題への対応
- ・ 公正な事業活動の実践
- ・ 人権と多様性を重視した職場づくり
- ・ コミュニティとの協働



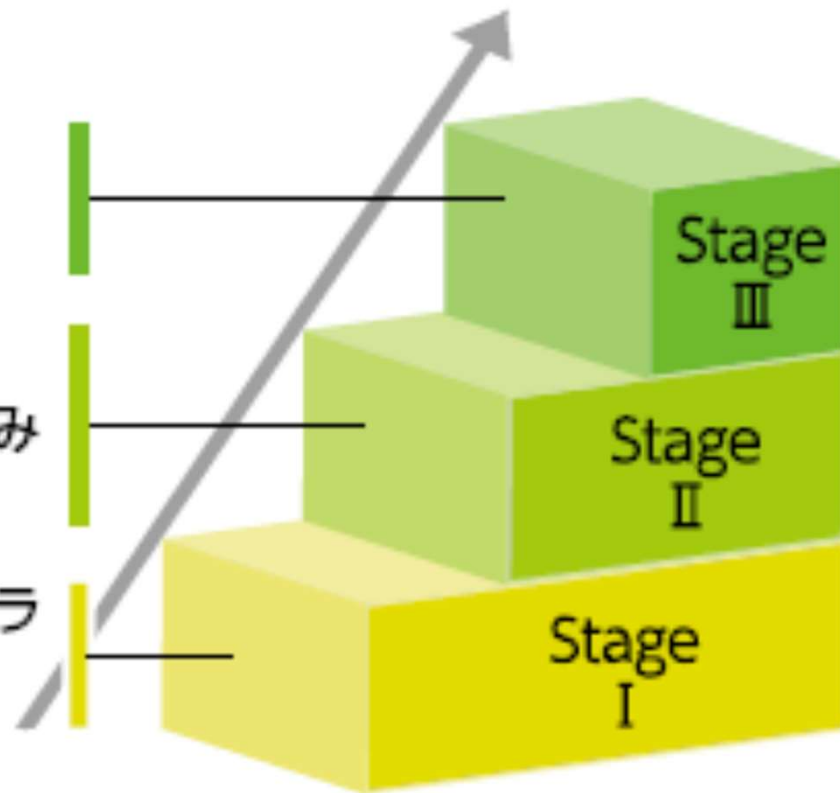
環境・社会と事業が一体化した経営 → C S V

CSR活動の成果

CSRと事業が一体化した経営
≡CSV(Creating Shared Value)

リスク強化→強みの創造
社会課題の解決プロセスへの組み込み
(成長機会の創出)

リスクコントロール(企業倫理、コンプライアンス)理念に基づく個々の活動



イオンの代表的な取組みとSDGs

イオンが実施してきた各種取組みをSDGs17の目標に当てはめていくと以下の通り。⇒万遍なくさまざまな形で社会貢献を実施

1 貧困をなくそう ペットボトルキャップで世界の子どもたちに笑顔を!!	2 飢餓をゼロに おにぎりアクション2017	3 すべての人に健康と福祉を TOPVALU グリーンアイ	4 質の高い教育をみんなに AEON 1% Club Foundation	5 ジェンダー平等を実現しよう AEON Diversity	6 安全な水とトイレを世界中に セーフウォーター
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに AEON 公益財団法人 イオン環境財団	8 働きがいも経済成長も AEON Diversity	9 産業と技術革新の基盤をつくろう まもろう 作戦	10 人や国の不平等をなくそう FAIRTRADE	11 住み続けられるまちづくりを 地域エコシステム	12 つくる責任 つかう責任 fururi
13 気候変動に具体的な対策を TOPVALU グリーンアイ	14 海の豊かさを守ろう TOPVALU グリーンアイ natural	15 陸の豊かさを守ろう TOPVALU グリーンアイ natural	16 平和と公正をすべての人に FAIRTRADE	17 パートナリシップで目標を達成しよう 折鶴ぼち袋	

「ビッグチャレンジ2020」 13の活動項目

2013年10月制定、2017年改訂

- 1 低炭素社会の実現**
 - 「イオンのecoプロジェクト」の推進
 - エネルギー&フロン
ポスト2020年目標の設定
- 2 生物多様性の保全**
 - 「イオン 森の循環プログラム」の実施
 - 自然資源の
持続可能な調達と消費
- 3 資源循環の促進**
 - 廃棄物ゼロの推進
 - 食品廃棄物ゼロの推進
 - 自然循環 ポスト2020年
目標の設定
- 4 多様な消費者の期待に応える
商品・サービスの提供**
 - ヘルス&ウェルネスの実現
 - BCM(事業継続マネジメント)
5カ年計画
- 5 公正な事業活動の実践**
 - フェアトレードなどの拡大
- 6 人権と多様性を重視した
職場づくり**
 - ダイバーシティの推進
 - ウェルネス経営の推進
- 7 コミュニティとの協働**
 - 地域エコシステムとの連動

2020年目標

(2012年8月28日発表)



エネルギー使用量
50%削減



再生可能エネルギー
20万kW



全国100カ所の
防災拠点



中長期目標策定へ
ポスト2020年目標



イオン ふるさとの森づくり の「植える」「育てる」「活かす」

2020年に向けた取り組みテーマ

植える	小型店舗での「ふるさとの森づくり」の実行 ⇒狭小敷地店舗での植樹方法の確立
	従業員の植樹体験を増やす取り組み ⇒新規グループ企業・既存店活性化植樹、近隣店舗派遣等
育てる	「ふるさとの森」植栽の計画的な品質管理 ⇒委託ルール整備、管理者の力量向上セミナー、生物調査
	植栽管理を通じた従業員参加 ⇒C&G活動、ミ二植樹（補植メンテナンス）
活かす	「ふるさとの森」を活用したコミュニケーション ⇒25周年コンテスト優秀アイデアの具現化

2017年4月に公表した目標の達成に向け、取り組みを本格化

農産物	・ プライベートブランドは、GFSIベースの適正農業規範（GAP）管理の100%実施をめざす。 ・ オーガニック農産物の売上構成比5%をめざす。
畜産物	・ プライベートブランドは、GFSIベースの食品安全マネジメントシステム（FSMS）または、適正農業規範（GAP）による管理の100%実施をめざす。
水産物	・ 連結対象のGMS、SM企業で、MSC、ASCの流通・加工認証（CoC）の100%取得をめざす。 ・ 主要な全魚種で、持続可能な裏付けのあるプライベートブランドを提供する。
紙・パルプ ・ 木材	・ 主要なカテゴリーのプライベートブランドについて、持続可能な認証（FSC認証等）原料の100%利用をめざす。
パーム油	・ プライベートブランドは、持続可能な認証（RSPO等）原料の100%利用をめざす。

食品廃棄物の削減

1. 食品廃棄物を2025年までに半減

発生原単位（売上百万円あたりの食品廃棄物発生量）を2015年度比で、2020年までに25%削減、2025年までに50%削減

2. 食品資源循環モデルの構築

店舗・生産者・リサイクル業者等の連携による地域循環モデルを2020年までに全国10か所・グループ1000店舗以上で構築

新たな資源循環モデルの構築～サーキュラーエコノミーの実現～

➤ 衣料・住余を中心としたモデルの確立

◆食品廃棄物発生量の削減

「見える化」を通じて、
発生量の削減と従業員の意識向上へ

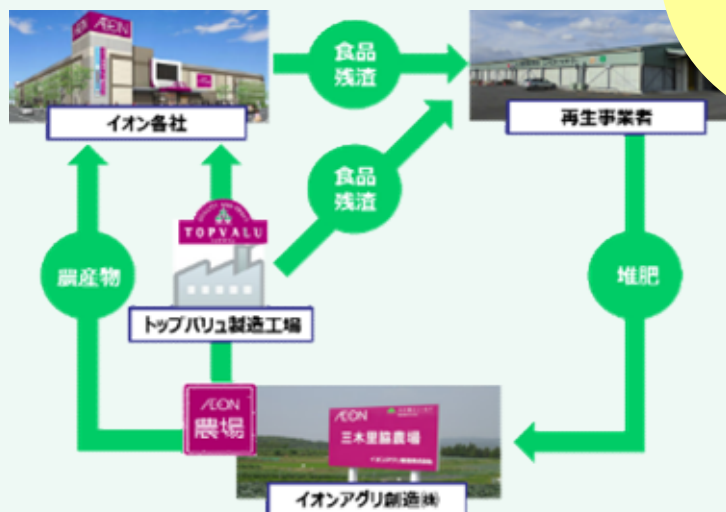


◆賞味期限の年月表示

PBの加工食品で、賞味期限1年以上の商品を
今後2年以内に年月表示へ移管



食品廃棄物
削減へ



◆食品資源循環モデルの構築



◆店頭での啓発活動

新たな資源循環モデルの構築

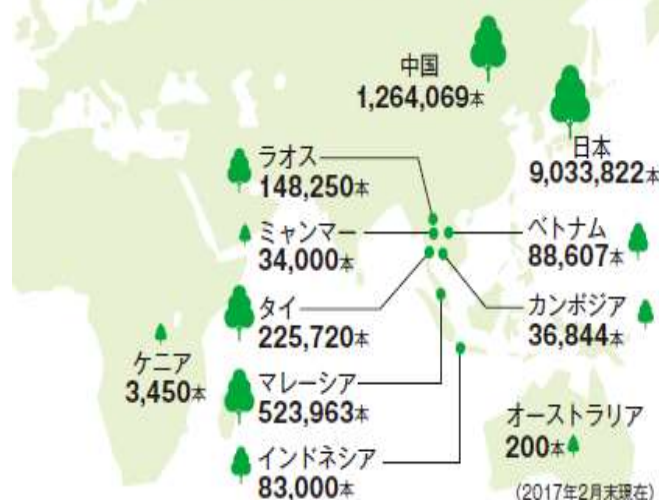
- ①店頭回収の強化 : セールス企画との連動、商品化までの取組
- ②様々なパートナーとの連携 : 自治体、外部機関、NGO等との連携



イオンの植樹活動 ～基本理念を具現化する活動として

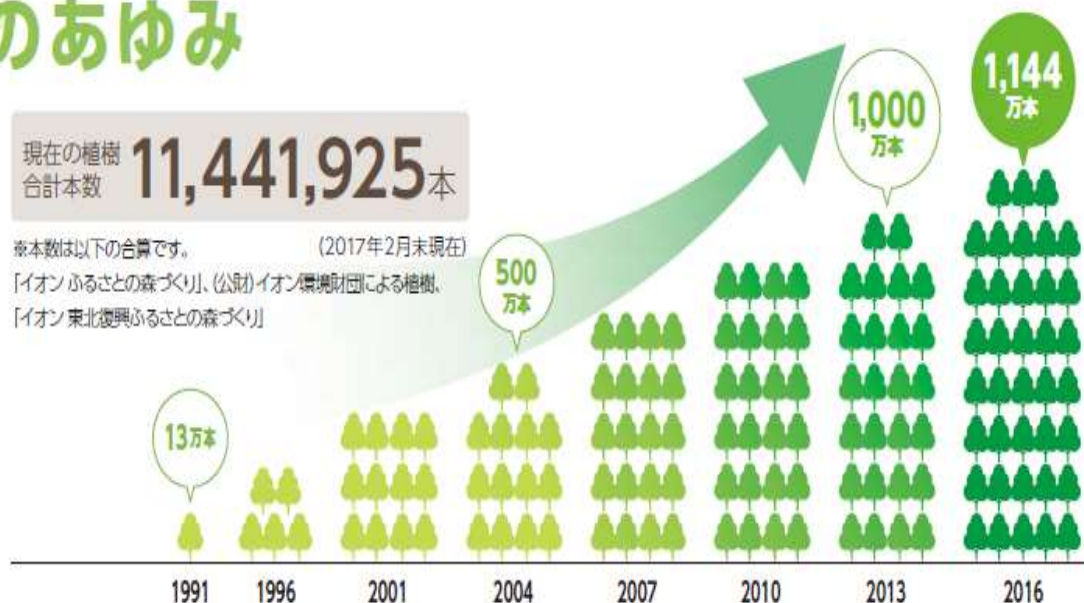
1991年より11か国で展開

植樹の広がりと活動のあゆみ



現在の植樹
合計本数 **11,441,925本**

※本数は以下の合算です。
(2017年2月末現在)
「イオン ふるさとの森づくり」、(公財)イオン環境財団による植樹、
「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」



「イオン ふるさとの森づくり」

マレーシア ジャスコマラッカ店
(現イオンマラッカSC)



「イオン ふるさとの森づくり」日本1号店

ジャスコ新久居店
(現イオン久居店)



中国「万里の長城・森の再生プロジェクト」

1回目の植樹を実施
イオングループ環境財団(現(公財)イオン環境財団)



「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」

東日本大震災被災地での植樹を実施
イオンタウン塩釜

コミュニケーション強化に向けた取り組み

戦略的な 情報開示

- 各ガイドライン、外部評価機関およびE S G投融資に対応した情報開示
- 掲載項目の棚卸（統合報告書 + C S R 報告書）

パブリシティ 強化

- C C 部（広報）と連携した外部発信の強化
- 2017年度に策定・発表した中長期目標の進捗・評価の定期的な発信

コミュニケーションツールの 精度向上

- コミュニケーションツールの棚卸・改善
グループ各社が使用しやすいツールの提供
- 環境ブランド調査で低評価のコミュニケーションツールのテコ入れ（ホームページ）
グループシナジーにつながるツールに再構築

2017年11月発行

<https://www.aeon.info/ir/library/aeon-report.html>

中長期の価値創造ストーリーと環境・社会貢献活動による
サステナブル経営の実現を網羅した報告書（全166ページ）



AEON Report 2017 (統合レポート)

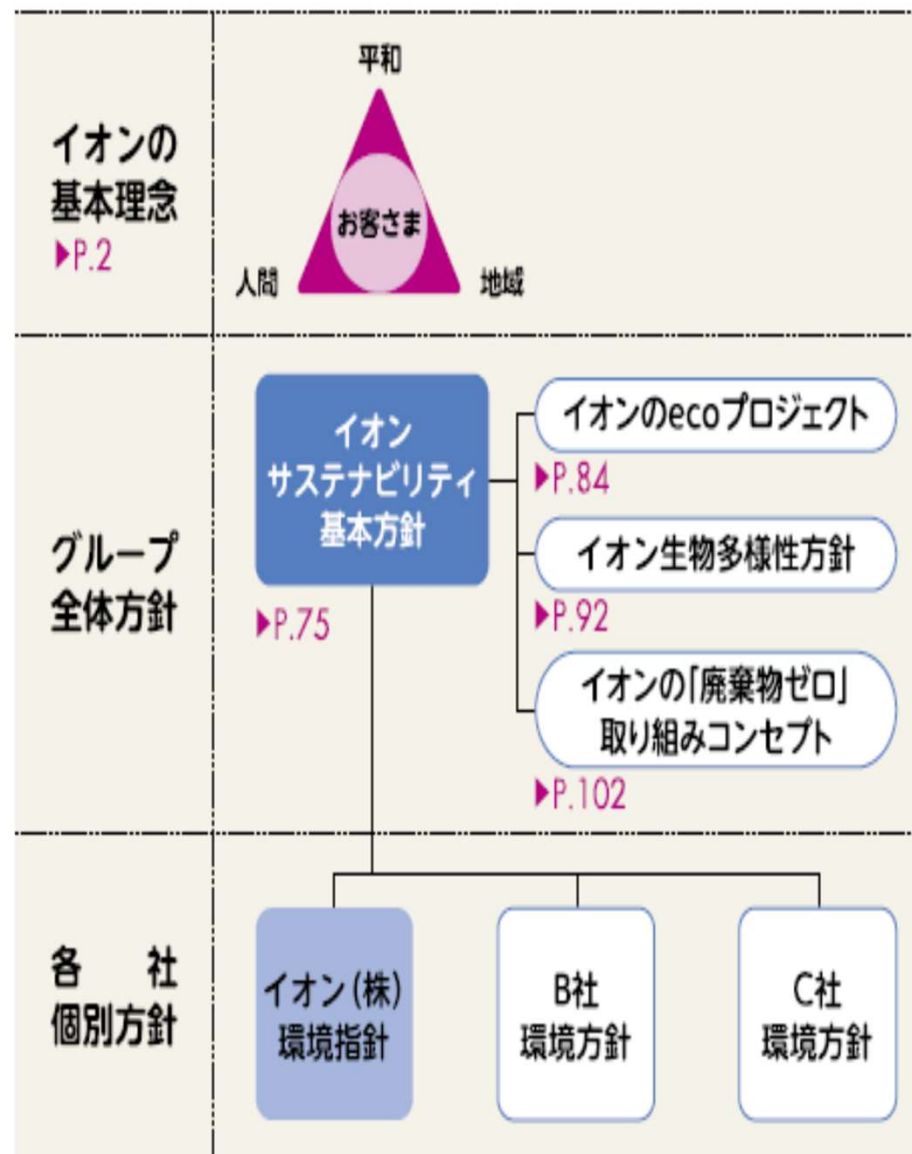
- 第一章 インTRODクシヨン
- 第二章 イオンの戦略
- 第三章 イオンのサステナビリティ
- 第四章 環境・社会活動報告（2016年度）
- 第五章 会社案内

イントロダクション	4	リスクマネジメント	52
数字で見るイオン	4	情報セキュリティ	53
価値創造モデル	6	コンプライアンス(企業倫理)	54
価値創造の全体像	8		
経営の特徴	10	イオンのサステナビリティ	57
小売を中心とした多様な事業展開		イオンの植樹25周年	58
地域に根ざしたサステナブル経営		特集1 ステークホルダー・ダイアログ	60
多様な人材を活かした経営		特集2 バリューチェーンにおけるCSRの推進	66
事業概要	14	イオングループのCSR	70
グローバル展開	16	環境マネジメント	76
ハイライト	18		
財務ハイライト		2016年度の取り組み報告	82
非財務ハイライト		環境活動報告	
イオンの戦略	22	低炭素社会の実現	84
トップメッセージ	24	生物多様性の保全	92
CFOメッセージ	26	資源循環の促進	102
イオングループ中期経営計画 (2017年度～2019年度)	28	社会活動報告	
中期経営計画の初年度	32	多様な消費者課題への対応	110
イオンリテールとダイエーの収益構造改革を完遂		公正な事業活動の実践	122
イオンリテール改革		人権と多様性を重視した職場づくり	130
ダイエー改革		コミュニティとの協働	140
イオンの商品に対する考え方	38	「平成28年熊本地震」への対応	148
コーポレート・ガバナンス	40	継続報告 東北創生の輪を広げる活動	150
イオンのガバナンスの特徴	40	社外からの表彰一覧(2016年度)	153
取締役会議長メッセージ	42	主な環境保全活動・社会貢献活動	
監査委員会議長メッセージ	44	公益財団法人の取り組み	154
指名・報酬委員会議長メッセージ	45	GRIガイドライン対照表	160
役員紹介	46	会社概要	166
コーポレート・ガバナンスの状況	50		

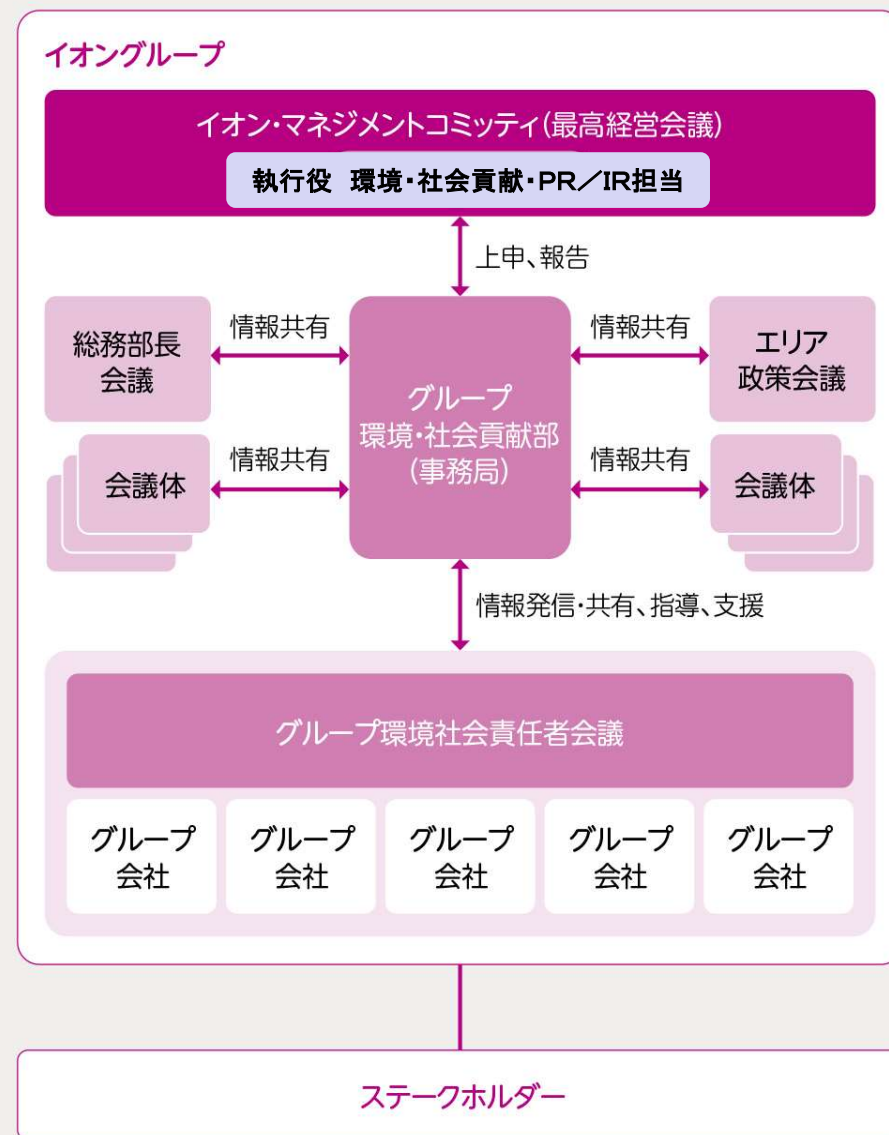
イオングループのCSR推進体制



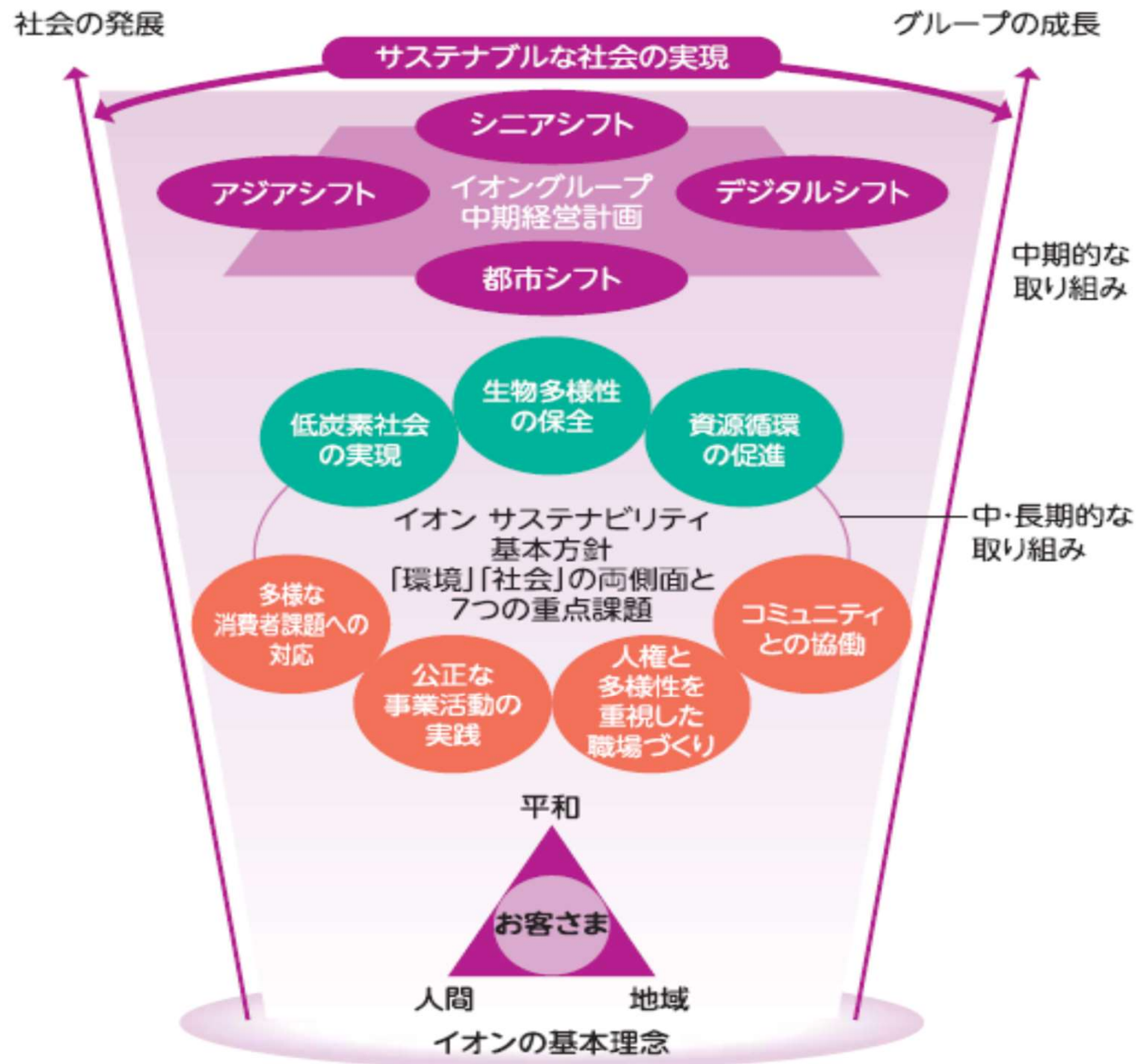
環境方針体系



CSR推進体制



イオンの基本理念とサステナブル経営



イオンの環境・社会貢献活動のあゆみ



●CSR推進組織の構築、新たな取り組みの開始

1989年-2001年

体制づくり

- ・イオン1%クラブ
- ・環境・社会貢献部
- ・イオン環境財団設立
- ・ISO14001認証取得

取り組み拡大

- ・イオンふるさとの森づくり、買物袋持参運動、
- ・クリーン&グリーン活動、
- ・イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン開始

●グローバルな視点での活動を拡大

2002年-2007年

- ・「イオンサプライヤーCoC」を制定
- ・「国連グローバル・コンパクト」への賛同を表明
- ・「SA8000」認証取得

●より組織的・計画的な活動推進を

2008年-2010年

グループ方針策定

- ・「生物多様性方針」発表
- ・「温暖化防止宣言」策定

●「グループの成長」と「社会の発展」をめざして

2011年-2013年

- ・「イオン サステナビリティ基本方針」策定
- ・「イオンのecoプロジェクト」開始
- ・ISO50001取得

●サステナビリティ経営の実践へ

2014年-2020年

- ・「イオン 持続可能な調達原則」策定
- ・「グローバル枠組協定」締結
- ・UNIDO(国際連合工業開発機関)とマレーシアにおけるCSRプログラムの展開



「グローバル枠組協定」締結会見

乳幼児から大学生までの各ライフステージで、
子どもたちの成長を支援する多彩なプログラムを国内外で提供





木を植えています

私たちはイオンです